

標茶小学校
児童30人

溶接工事などに歓声



標茶市街地を流れる釧路川に架かる開運橋は、1889年(明治22年)に、木製の橋が架けられたのが始まり。その後、鋼製の橋が架けられたのは、58年の旧橋の老朽化に伴うもの。事業は2002年度から始まり、仮橋の建設や旧開運橋の撤去、04年度からは橋台や橋脚の建設が始まり、今年12月に車道と片側の歩道が開通する見込み。今年度末までには、橋は完成するが、道路を含めたすべての工事が完了するのは07年度の予定。

建設
橋見
運学
開事
新工

橋の歴史や概要説明

釧路土現弟子
屈出張所など
子供らに思い出を

【標茶】好天に恵まれた25日、「新開運橋建設工事見学会」が開かれ、標茶小学校(大倉光昭校長)の児童らが一般市民としては初めて橋に上がった。子供たちに、一生のうちに2度と無いかもしれない架け替え工事の良い思い出をつくってもらおうと、釧路土木現業所弟子屈出張所(岡春男所長)と施工業者、町が今回初めて企画した。

(黒田文夫)

幅約2・7メートルの旧橋は、58年の旧橋の老朽化に伴うもの。事業は2002年度から始まり、仮橋の建設や旧開運橋の撤去、04年度からは橋台や橋脚の建設が始まり、今年12月に車道と片側の歩道が開通する見込み。今年度末までには、橋は完成するが、道路を含めたすべての工事が完了するのは07年度の予定。

橋の長さは約120メートルだったが、73年に堤防の拡幅に伴い、橋を約81メートル延ばす工事が行われた。この時、交通量の増加による歩行者の安全確保を目的に、歩道が向側に新設された。

新開運橋は、地震対策を施すほか、歩行者の増加や車いすの安全確保のために、歩道の幅をこれまでの2・25メートルから4メートルに広げる。総事業費は約25億円。この日の見学会には、希望した418年生30人が参加。

橋の上で説明を聞く児童ら

「皆さんがおいちゃ説明を受けた児童らは、おぼあちゃんになってもこの橋が残っていると思うので、今日の見学会のことをぜひ思い出してほしい」などあいさつを見学しながら、「面白い」「楽しいけど怖い」などど歓声を上げていた。

はじめに岡所長が、開運橋の歴史を紹介しながら